

# 令和5年度 日本農業経営学会研究大会のご案内（第1報）

令和5年度日本農業経営学会研究大会（東京農業大学大会）は、下記の日程で開催いたします。

1. 日時 2023年9月8日（金）～9月10日（日） [予定]
2. 会場 東京農業大学世田谷キャンパス（東京都世田谷区桜丘1-1-1） [予定]  
オンラインとのハイブリッド開催も検討中
3. 日程 第1日 9月8日（金）40周年記念シンポジウム [予定]  
第2日 9月9日（土）大会シンポジウム，総会，懇親会 [予定]  
第3日 9月10日（日）分科会，個別報告 [予定]

## 4. 大会シンポジウムの内容

テーマ：資源・環境制約下における農業経営の展望と戦略（仮題）

現在、脱炭素、生物多様性保全をはじめとする環境対応は、世界的に喫緊の課題となっている。この点は、農業についても同様である。その一方で、高経済成長国などでの農産物需要の拡大、さらにロシアのウクライナ軍事侵攻も加わり、世界的な農産物需給のひっ迫、エネルギー、肥料などの農業資材の価格高騰が起きている。このような変化も背景として、企業経営においては、「株主資本主義」から「ステークホルダー資本主義」への転換、ESG投資ということが言われ、企業経営のパラダイム転換が求められている。このことは農業経営にとっても同様である。現在、食料・農業・農村政策の見直し作業が始まっており、農政転換という形での農業経営環境の変化として迫られることも考えられる。

このような認識に基づくと、農業経営学には、世界の歴史的な転換点において、これからの農業経営の理念と経営戦略を指し示すことが求められているといえる。本シンポジウムは、このような期待に答えていくことを目指すものであるが、これまでの到達点などを踏まえ、農業経営が直面している課題の中でも、資源、環境問題を中心に据え、課せられている目標とともに、農業経営の現在位置を踏まえた議論を行う。

座長：徳田 博美（名古屋大学）・八木 洋憲（東京大学）

第1報告 「有機農業がひらく農業経営革新のフロンティア」（仮題）

胡 柏（愛媛大学）

第2報告 「2030年を見据えたEUの有機農業支援：ドイツを中心に」（仮題）

市田 知子（明治大学）

第3報告 「農業における環境と経済の両立可能性を考える」（仮題）

林 岳（農林水産政策研究所）

第4報告 「持続可能な有機農業経営の探求—大規模有機農業者・金沢大地の取り組み—」（仮題）

井村 辰二郎（金沢大地）

辻村 英之（京都大学）

コメンテータ：上西 良廣（九州大学）

1名調整中

## 5. 個別報告申し込み

会員の皆様には6月上旬に大会案内を電子メールでお送りします。詳しくはそちらをご覧ください。  
なお、個別報告申し込み締め切りは2023年7月3日(月) [必着]を予定しています。

## 6. その他

今大会の参加受付は、事前登録制を予定しています。詳しくは、6月上旬送信予定の大会案内をご覧ください。